

2026年

## 2月 練習計画

横浜室内合唱団

日・曜＼分	20分	20分	5分	20分	10分	40分	5分	40分	20分	会場 時間	
14日 (土)	発声	「草原の別れ」を ピアノ伴奏で 合わせます	休憩	「Ave Verum Corpus」を 譜読みします	休憩	「水すまし」を 譜読みします	休憩	「なぎさ歩めば」 を譜読みします	愛唱集 P伴 から	寺尾地区センター 13:00～16:00 (安井さん)	
日・曜＼分	20分	20分	5分	20分	10分	40分	5分	40分	20分	会場 時間	
28日 (土)	発声	「若き日の」 「潮音」を 譜読みします	休憩	「水上」を 譜読みします	休憩	「月夜」を 譜読みします	休憩	「夏まつり」 「流れ星」を 譜読みします	愛唱集 無伴 から	寺尾地区センター 13:00～16:00	
(練習の ポイント)		①無伴奏曲「流れ星」「潮音」「夏まつり」「若き日の」を譜読みします。 各パートの旋律やハーモニーに注意して、詩の表現を考えながら歌いましょう。 ②混声合唱組曲「月光とピエロ」より、Ⅰ「月夜」中間部を中心に譜読みをします。 混声合唱組曲「千曲川の水上を戀ふる歌」より、Ⅱ「水上」 詩の意味や曲の表現を考えながら歌いましょう。 ③混声合唱組曲「心の四季」より、Ⅲ「みずすまし」 混声合唱組曲「旅」より、Ⅳ「なぎさ歩めば」 混声合唱曲「草原の別れ」(ピアノ伴奏)を譜読みします。 詩の意味や曲の表現や、構成を考えながら、譜読みをしましょう。 ④「Ave Verum Corpus」 発音に気をつけながら譜読みをしましょう。									

## 練習の記録 (2026年1月10日)

於：寺尾地区センター 13時～16時

## 発声練習の後

- ① 望郷 A B C をパート毎に音取りをして最後に通しで歌った
- ② Ave Verum Corpus テナーベースを中心に音取りをして最後に通しで歌った
- ③ 水すまし アルトパートソロ「暗示的なこと～」のところまで練習した  
言葉を大切にしたい (下記に眞形さんより別途解説あり)
- ④ なぎさ歩めば 前半部分 (間奏の前まで) 各パート音取りをした  
最後に「わたりどり」「ふるさとの青い空」「にじ」「みかづきのゆりかご」を  
通しで歌った。

参加者：15人(S3 A4 T2 B3 C1 P1 V1)

↑見学者 visitor 1名あり

記録：I

きょうの練習の成果 … 心の四季「みずすまし」を歌って … 2026.1.10

組曲2番目の「みずすまし」を歌い始めました。歌う際の注意点の成果を記録しておきます。

- ・「いってきの」は言葉の通りに歌いました。「の」は「かぜが」の「が」のように軽く付け加えるように歌いました。そのため、四分音符ですが、少し短めにしました。
- ・「すいぎんのよなみずすまし」の「ぎん」は、例えば「ぎんこう (銀行)」のように発音しました。
- ・「やや おもく」の「やや」で、後ろの「や」は四分音符ですが、少し短めに歌いました。普通私たちが話すとき、「やや」は独立しているからです。「おもく」との間は切って歌いました。

・「そして ときおり みずにもぐる」の「そして」の「し」は、音符が×になっているので、無聲音にして歌いました。動物などを追い払う時の「シ」と同じです。「て」は付け加える程度に歌いました。「ときおり」の後ろの「みずにもぐる」は言い直すようにして歌いました。「みずにもぐる」は4つのパートになるので、揃えるためです。

・「あれは あんじてきなこと うくだりでなく もぐること」で、「あんじ」の発音は「ぎん」と同じで「あ」と「ん」をなるべく離れないようにしました。この部分は、低い音なので、言葉が聞き取れるようにするために、速度をおとして歌いました。

・練習の時言うべき注意点を1つ忘れていました。「ぎん」の「ぎ」は鼻濁音にしないで歌い、「もぐる」の「ぐ」は鼻濁音で歌いましょう。

きよう歌ったところは、詩人が感じた「みずすまし」の印象と、その動き方の概観です。詩人は、この動きはそれとなく何かを示している（あんじ）と言っています。それは何か？ 次回の練習をお楽しみに。

「みずすまし」を調べたら、目についたのは、「目が4つある」ことです。私は知りませんでしたが、知っていましたか？ 水面の上を見る目2つと、水中を見る目2つ。人も前と後ろに目があったらな。絶滅危惧種だそうです



記録 Y・M

練習の記録（2026年1月31日）

於：寺尾地区センター 13時～16時

発声練習の後

- ・「水上」 各パート 音取りして合わせる
- ・月光とピエロ「1. 月夜」

前半部分(10小節)と後半部分(13小節)を音取りして合わせる 中間部分(17小節)は次回

- ・「若き日の」（たまゆらの別れ→しばしの別れ）「潮音(しおのね)」
- ・「流れ星」「夏のゆうべ」「草原の別れ」「信濃の秋」

参加者： 14人 (S4 A5 T1 B3 C1)

記録；S